

四国・水こぼれ話 Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol.109

源流点の郷からの水だより

高知県
みょうじん
明神

津野町長
たけお
健夫



自然豊かな津野町は、四国カルスト天狗高原、不入山、鶴松森などの山々がそびえ四季折々の美しい山容をみせています。

なかでも、天狗高原自然休養林の森林のもつリラックス効果が科学的に実証されたことで、平成18年4月には「第Ⅰ期森林セラピー@ロード」として林野庁から認定され、癒しと憩いの地となっています。

また、津野町の中央にそびえる不入山周辺は、自然林と鍾乳洞や渓谷など手付かずの自然が多く存在しています。秀麗な姿の鶴松森付近には、環境にやさしい20基の風力発電所ができ、周辺には風の里公園が整備され新たなスポットとなっています。

これらの山々を源とし、日本カワウソが最後に見つかったことで名高い新莊川、日本最後の清流と称される四万十川の源流点からの清い流れが渓流や棚田を形成し、アユやアメゴ、イダ、そしてウナギなどを育み、人々の生活と訪れる太公望に潤いと恵みを与え太平洋へと注いでいます。

しかし、社会情勢や生活様式の変化から、道路改良工事や農地整備などが進み、自然護岸の景観

の悪化と水質汚染などによる河川環境の破壊が問題となっていました。

こうした問題に源流点の町としていち早く取り組みをはじめ、水質浄化対策では高度処理の合併浄化槽を町営で推進する一方で、自然護岸による川づくりに着目しました。平成3年から5カ年計画で環境先進国のひとつで、近自然工法の発祥の国であるスイスに住民を派遣し、自然環境や景観のあり方とその保全方法、再生方法などについて視察研修を行いました。

その研修の成果は、四万十川第二支流の北川川を中心に実施し、道路工事で破壊された河岸の再生、また魚類の生息環境づくりを目的とした河川への巨石の放流事業、そして落差工の改修事業等々、近自然工法の理念を用いた事業として取り組んでまいりました。

その結果、これらの箇所には多くの魚が生息し自然形態の維持保全に顕著な効果が現れています。このように、津野町では人と自然や環境に優しく、災害に強い町づくりの推進に努め清らかな河川環境の維持保全に取り組んでいます。



森林セラピー@ロード（ヒメシャラ林）



四万十川源流点